

空間領域の家

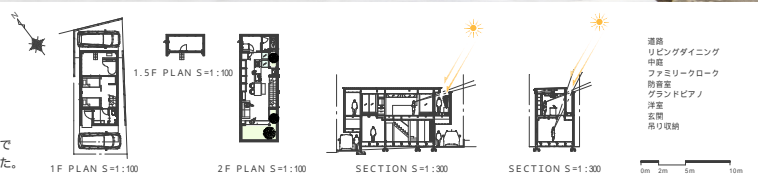


限られた敷地内での空間のエフィシェンシーを追求する

都市型住宅において、限られた25坪の敷地に駐車2台を確保したいというクライアントの要望を受け、空間効率の最大化を目指した。駐車スペースを確保しながら、1階の居住空間を最大限に活用する「空間のエフィシェンシー」を追求している。

最小限のフットプリントとフローティングによる空間最適化

建物の基礎部分が敷地に占める面積、いわゆる「フットプリント」を最小限に抑え、建物両サイドにスラブオーバーハングを施すことでフローティング形状とした。これにより、限られた敷地内でも駐車スペースと居住空間の共存を可能とし、空間効率の最大化を実現した。



種別
リビングダイニング
中庭
ファミリークロー
クローゼット
ランドリア
浴室
玄関
廊下収納



(推薦理由)

本建築物は、建築コストの高騰と地方都市特有の用地不足という現代の切実な社会課題に対し、「空間エフィシェンシー（空間効率）」の最大化という明確なコンセプトで応えた、地方都市型住宅の優れたモデルである。

昨今の物価上昇に伴う建設費の増大に加え、利便性の高いエリアでの高額な土地取得費は、地方における戸建住宅の取得を困難にしている。本建築物は、敷地面積を抑えつつ、新潟の生活において不可欠な駐車場2台を確保するという制約に対し、建築的な工夫により極めて合理的な回答を導き出している。

まず、1階はフットプリントを最小限に抑えることでピロティ状の駐車スペースを創出し、2階部分は構造的な処理による「跳ね出し」を用いることで、居住空間を最大限に拡張させている。この機能的な「積層のズレ」が、結果として建物に浮遊感を与え、周辺環境に対する圧迫感を軽減しつつ、独自の存在感を放つ魅力的なファサードへと昇華されている点は高く評価される。

また、特筆すべきは「中庭」としての機能を持つ囲われたバルコニーの存在である。これは単なる屋外スペースの確保に留まらず、外部からの視線を遮りながら光や風を享受する、極めてプライバシー性の高い半屋外空間を創出している。この設計的アプローチは、昨今の「庭の管理」を敬遠しがちな社会志向に対しても、維持管理の容易さと豊かな居住性を両立させる新たな都市型住宅の選択肢を提示するものと言える。

限られた敷地条件であっても、設計の力によって豊かさと機能性を両立できることを証明した本作は、今後の地方における都市型住宅のスタンダードとなり得る。その高い完成度と社会への提案性を鑑み、本建築物を優良建築物として推薦する。